



町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【別れと新たな出会いの季節…】

今年の二月は例年になく雪が少なく、あつという間に雪解けが進み、春の陽気となりました。

今年の桜の開花は、例年に比べて早いような気がいたします。

三月一日（金）、春のような陽気の中、北海道福島商業高等学校の第六十五回卒業証書授与式があり、来賓として参加させていただきました。

私の母校でもあり、毎年楽しみにしておりますが、今年の卒業生は男子七名、女子六名、計十三名でした。

卒業生の数は少なかったですが、堂々と立派で厳粛な卒業式でした。

年々少子化の影響で子どもの生まれる数が少なくなり、入学生が減少傾向にあります。これまでの卒業生が三、一〇二名となっており、町の人口と変わらない卒業生を輩出しております。

この歴史ある地元の高

校をいかに存続するかが、私たちに課せられた使命であると、改めて感じた卒業式でした。

卒業生は、仲間と別れ四月からは新たな出会いが待っているはずです。

卒業生の明るい前途と船出に祝福あれ：です。

三月は、三月定例会と予算特別委員会が開催され、今年三月八日（金）が初日で、新年度に向けた町政執行方針や予算が審議される大変重要な議会となっております。

初日は、夜間議会も開催され、五人の議員の方々から一般質問があり、様々な問題提起をいただきました。

なお、町政執行方針では、私に残された任期が残すところ僅かとなり、「笑顔あふれる福島町の実現」に向けた、総仕上げの年と申し上げ、新たな時代という大きな変革期に臆することなく、果敢に立ち向かい、町民の

幸せと豊かさを探求する姿勢を貫き、ゆるぎない信念のもと、思いやりのある行政を職員と共に全力で取り組むことを申し述べさせていただきました。

平成三十一年度の予算額は、一般会計が三十七億円余りで、六つの特別会計を合わせた総額は、五十三億円余りとなっております。

人口減少が進む中で、ここ数年厳しい財政運営を余儀なくされておりますが、国などの動向や情報を的確に把握し、より有利な財源を確保しながら、簡素で効率的な財政運営に心掛けてまいり所存でありますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

この度地元から航空自衛隊へ一名の方が入隊することになり、三月六日（水）に、福島町自衛隊家族会と町の主催による激励会が、二年ぶりに役

場において開催されました。国際貢献や災害など自衛隊の役割は広がっており、新たに入隊される方は是非、国を守ると高い志を胸に、職務に励んでいただきたいと思っております。

今年五月に改元されますが、この度の広報が皆様のもとへ届く四月一日には、新たな元号が公表されることとなっております。平成の時代が幕を閉じ、新たな歴史のページが始まることとなります。

今、国の統計問題等が報道などで大きく取り上げられておりますが、論語の中に「政は正なり」とあり、「政」（まつりごと）、政治とは正しいものでなければならぬ、正しくない政治は「政」ではなく、住民の信を失うといわれております。新しい時代に向けて、謙虚で正しい「政」に努めてまいります。